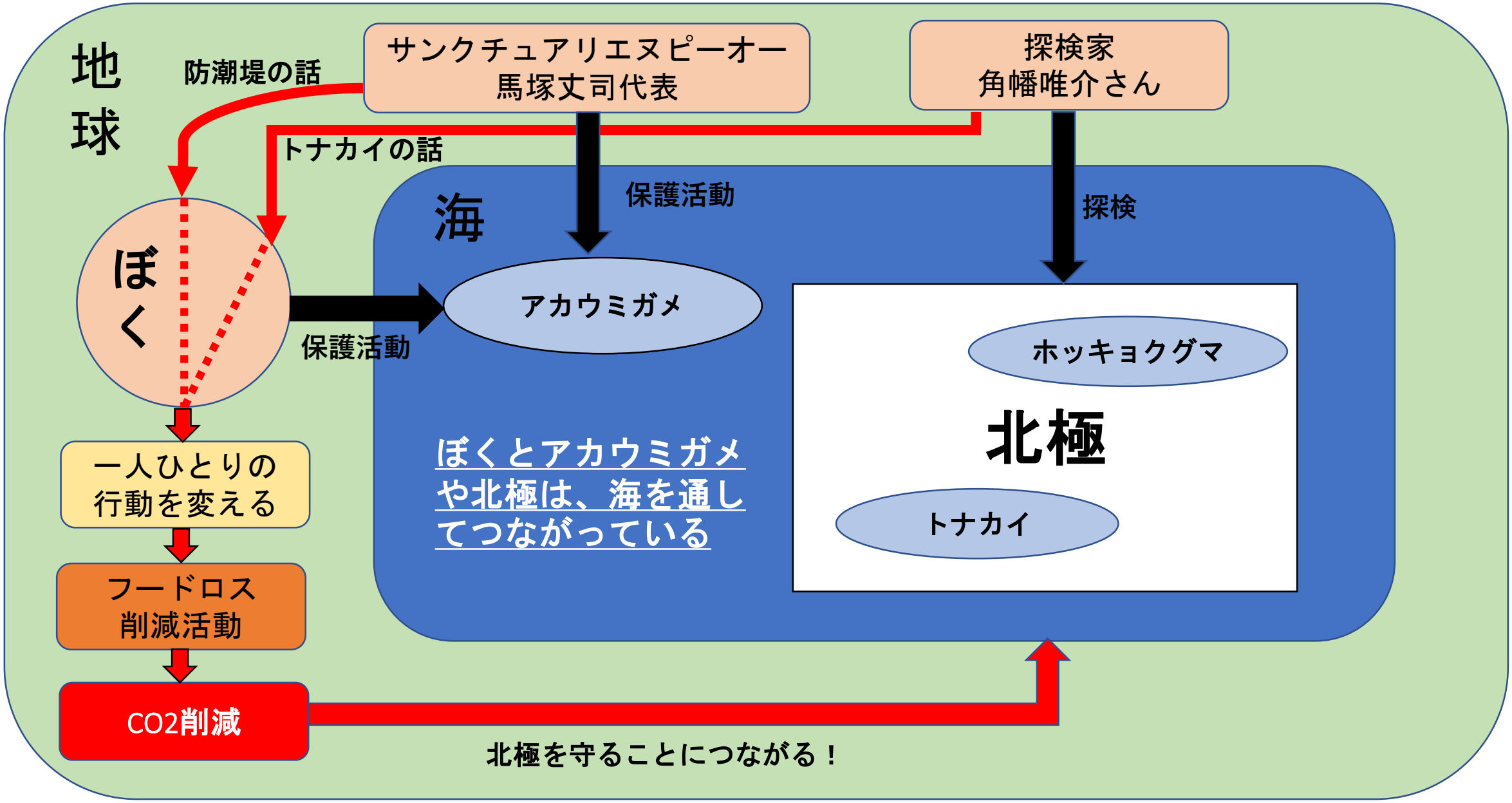
まとめの図


地球
防潮堤の話
サンクチュアリエヌピーオー
馬塚丈司代表
探検家
角幡唯介さん
トナカイの話
保護活動
探検
海
ぼく
保護活動
アカウミガメ
ホッキョクグマ
北極
トナカイ
ぼくとアカウミガメや北極は、海を通してつながっている
一人ひとりの行動を変える
フードロス削減活動
CO2削減
北極を守ることにつながる！

北極のために
ぼくができること

はじめに　ぼくと北極をつなぐ海

　ぼくにとって「北極」は遠い場所。オーロラやトナカイは知っていても、生活のなかで北極を意識することはほとんどない。でも、僕と北極はあるものを通してつながっている。それは海だ。
海は地球の表面積の７割を占めている。生物は海から誕生し、陸へと上陸した。海は全ての生き物の故郷でもある。僕は海が大好きだ。３歳の頃から、毎年夏になると太平洋へ出かけ、ボディボードを楽しんでいる。そんな海も、変化していることに気がついた。

①ぼくとアカウミガメ

　ぼくは１歳のころから、毎年、静岡県浜松市の遠州灘で、「サンクチュアリエヌピーオー」が主催するアカウミガメの保護活動に参加してきた。それはまず、アカウミガメが産んだ卵を掘り出して保護するお手伝いをする。そして、ふ化したばかりのアカウミガメを海へと放流して、いつか故郷に帰ってくるのを待つというものだ。

2015年、１歳でウミガメ放流に初参加

2018年、４歳

2021年、7歳

①ぼくとアカウミガメ

産卵調査では、アカウミガメが上陸した足跡をたどって産卵した巣を探し出す。そこを掘り返すと、１つの巣穴から１００個から２００個の卵が出てくる。このほか、ビーチクリーンにも参加してきた。毎年参加するなかで、気になることがでてきた。それは毎年、放流するウミガメの数が減っていることだ。

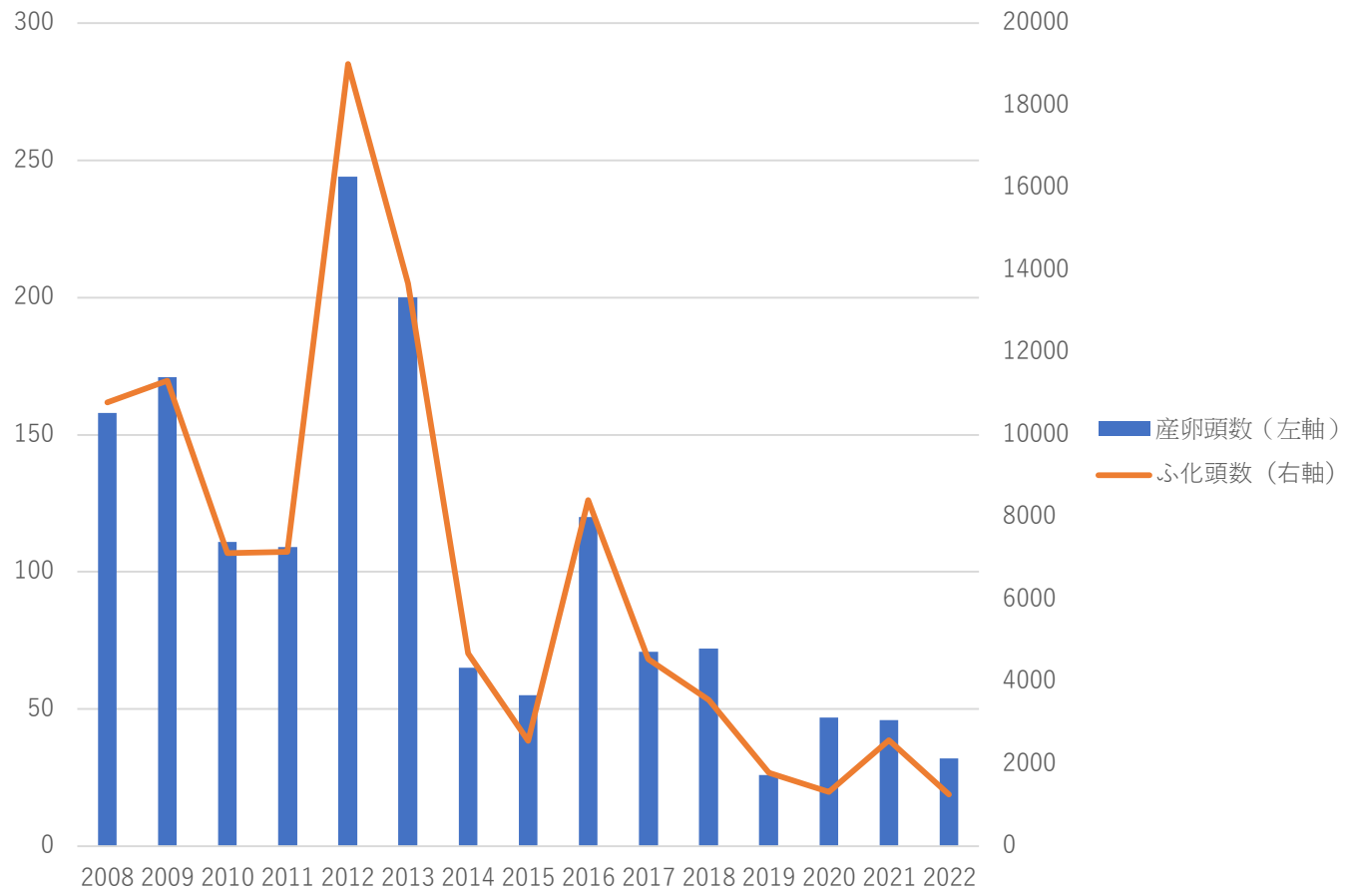
アカウミガメの足跡

サンクチュアリエヌピーオー代表の馬塚丈司さんにアカウミガメの産卵場所について説明を受ける

アカウミガメの卵の殻はやわらかくて落としても割れない

②浜松市で減少するアカウミガメ

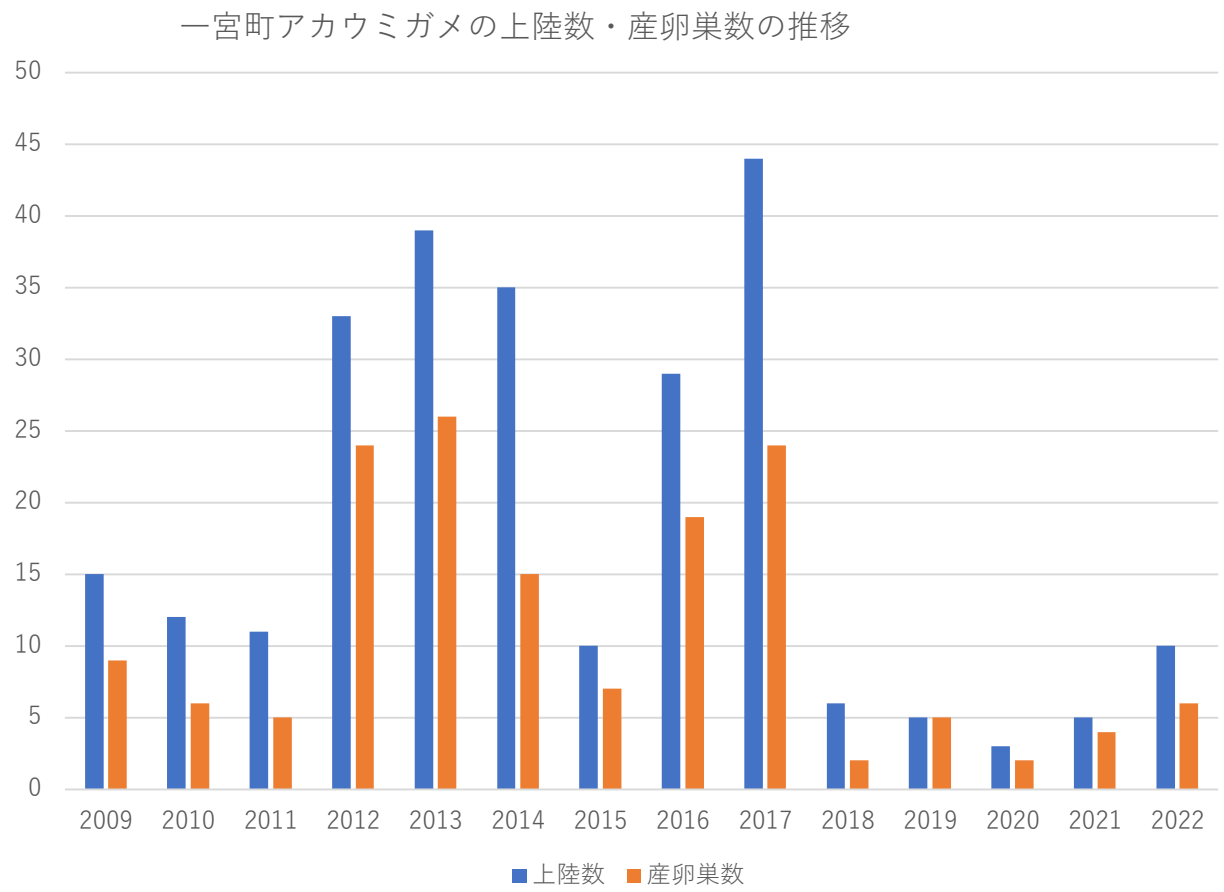
浜松市におけるアカウミガメの産卵頭数とふ化頭数の推移



（出所）サンクチュアリエヌピーオーのデータを基に作成

浜松市で30年以上、アカウミガメを保護してきたサンクチュアリエヌピーオーの馬塚丈司さんに話を聞いてみた。過去14年を振り返ってみると、最も多くのアカウミガメがやってきたのは2012年で２４４頭。卵からは１万９０１９頭のアカウミガメが生まれた。その年を境に、産卵するアカウミガメの数は減っていき、今年産卵したアカウミガメは３２頭になってしまった。ふ化したカメの数は１２５３頭まで減った。

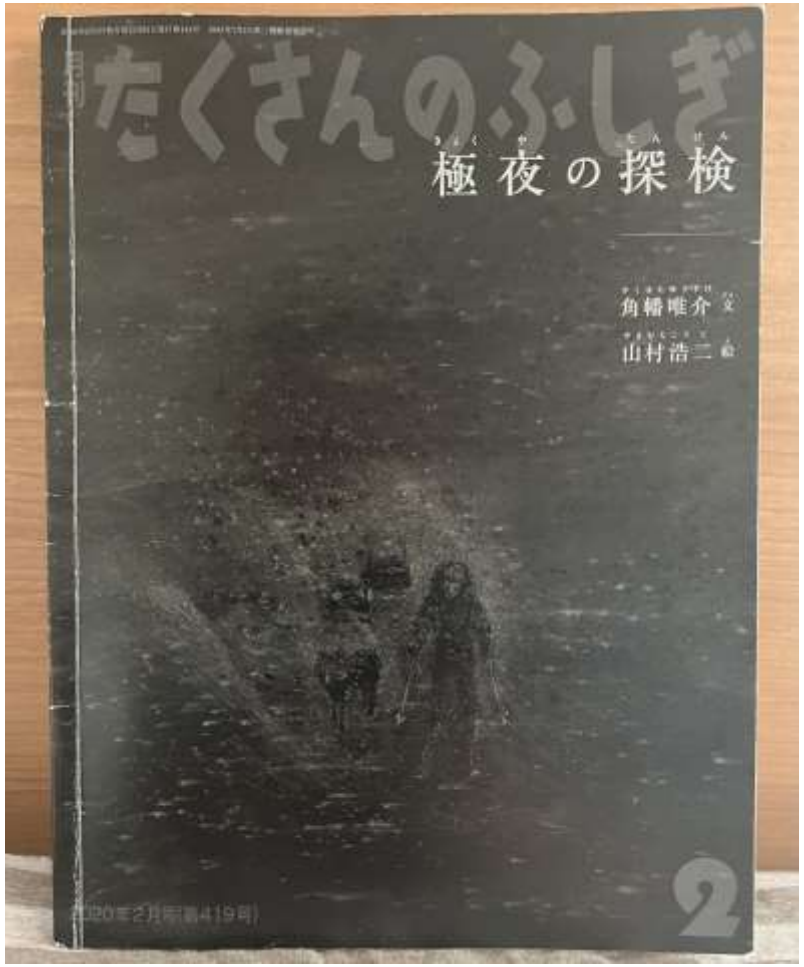
③千葉県一宮町でも減少



（出所）一宮ウミガメを見守る会のデータを基に作成

　ぼくがボディーボードをしている千葉県一宮町にも変化が起こっている。「一宮ウミガメを見守る会」の渡部明子会長にもデータをもらった。
一宮川から太東海岸までの７km の砂浜でアカウミガメの上陸数と産卵巣数をみてみると、浜松と同じように、上陸するアカウミガメの数が減っていることがわかった。

④北極海の今



月刊「たくさんのふしぎ」通巻419号「極夜の探検」
福音館書店発行

　ぼくが泳ぐ太平洋と、北極はつながっている。アカウミガメが減っているように、北極にも何か変化が起こっているのではないだろうか。だとしたら、北極の今について誰に聞くべきか。

　ぼくは、角幡唯介さんに話を聞きたいと思った。なぜなら、角幡さんの「極夜の探検」という本が好きだからだ。この本は太陽が登らない極夜のグリーンランドを、４ヶ月にわたって１匹の犬と探検した体験が書いてある。ぼくはこの本を読んで、人間にとって太陽はすごい存在だということがわかった。

④北極海の今

月刊「たくさんのふしぎ」通巻419号「極夜の探検」
福音館書店発行

　角幡さんに話を聞きたいとお願いしてみたところ、「インタビューしにおいで」と言われてとても嬉しかった。
角幡さんは2011年から、北極を旅している。最初はカナダから出発して１６００キロを歩いたそうだ。2016年から2017年にかけて極夜を探検した後は、毎年、犬ぞりを使ってグリーンランドの北の地域を旅している。今は、アザラシやウサギ、オオカミを狩りしながら旅をしているそうだ。いかにもサバイバルで、原始人みたいだなぁと思った。

⑤凍らない海

角幡唯介さんとぼく

角幡さんにもらったホッキョクグマの爪

　角幡さんは、北極を犬ぞりで旅することが上手になりたいと言った。旅が上手になれば、行ける場所がどんどん増えるからだ。でも北極にも変化がある。2016年、角幡さんが旅するグリーンランドとカナダの海峡地域の氷が初めて凍らなかった。「今までそんなことは一度もなかった」と村人も言っていたそうだ。その後も、翌年は凍ったけどその次の年は凍らなかったり、とても不安定になってきているそうだ。旅する場所が減っていることは角幡さんにとっても問題だと思う。

⑥二酸化炭素は悪者ではない？

　ぼくが活動する千葉県と静岡県の海と北極海、それぞれに変化が起きている。それはきっと「地球温暖化」のせいに違いない。北極の氷が溶けるのを防いだり、ウミガメを守るためにも、二酸化炭素を減らさなければならないと僕は思っていた。でも東大先端研究所の中邑賢龍先生に質問したら「二酸化炭素が悪ものではありません。二酸化炭素は植物にとっても必要なものです。大切なのは無駄に二酸化炭素を出す人間が悪いのです」と言った。

⑦防潮堤から流れ込む礫土

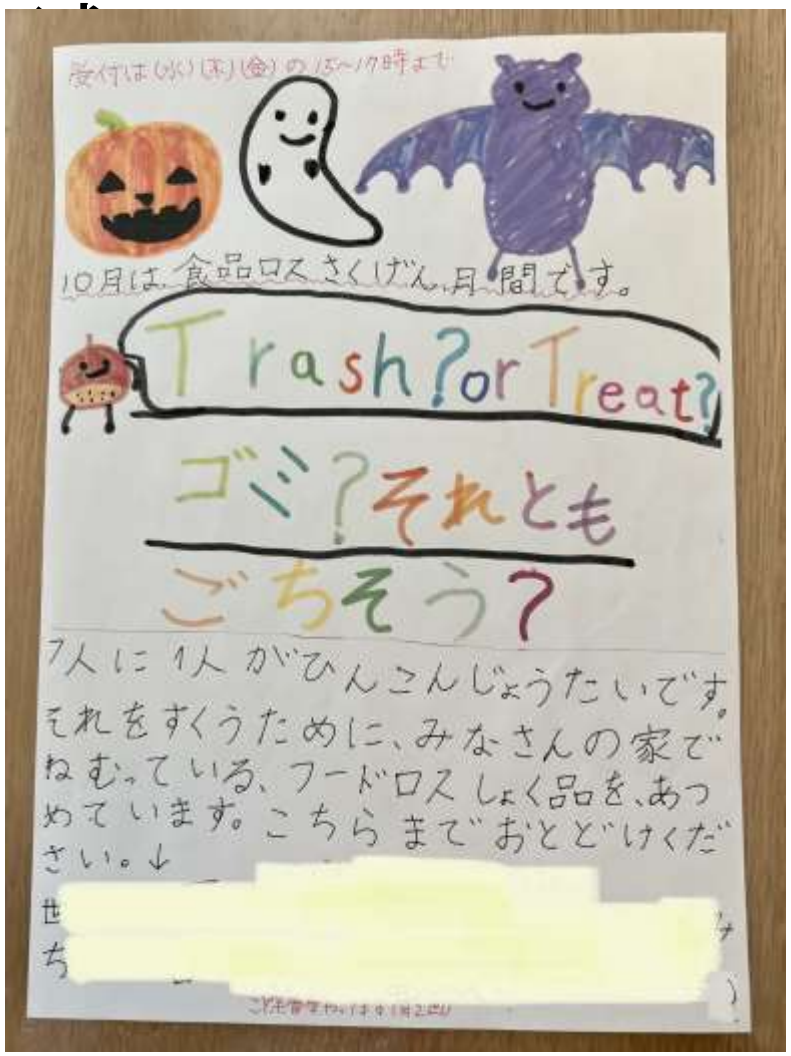
津波を防ぐための防潮堤

　アカウミガメが減っている原因はなんだろう。サンクチュアリの馬塚さんに聞いてみた。答えは意外にも、「地球温暖化とはいいきれない」というものだった。浜松の海岸は今、津波に備えた防潮堤工事が各地で行われている。防潮堤を作るために搬入される、石が混じった土、「礫土」が大量に砂浜を覆ってしまい、貴重な水辺環境が壊れ、砂浜の陸地化が深刻な問題になっているそうだ。このほかにも、砂浜の近くに近々、野球場の建設が予定されている。「アカウミガメのためにも、建設はとめないといけない」と馬塚さんは言った。ぼくもそう思う。

⑧消えたトナカイ

　角幡さんが犬ぞりで旅する地域は、トナカイを保護するため、グリーンランド政府が狩猟を禁止したそうだ。そのせいで狼が大量にやってきて、トナカイとウサギを食べ尽くされ、今では全く見かけなくなったらしい。人間が動物を保護するためにやったことで、逆に動物が消えてしまった。
今、その地域にはホッキョクグマが大量にやってきていて、角幡さんも、何度も遭遇してとてもこわい思いをしたそうだ。

⑨僕にできること「フードロス削



　つまり地球環境の変化は、温暖化だけが原因ではないのだ。地球規模の問題も、つきつめれば一人一人の行動が変われば解決につながるかもしれない。僕が北極やウミガメのために、今いる場所でできることはなんだろう。それは、無駄を減らすことだ。僕は、放っておけば消費されずに捨てられてしまうかもしれない食材をなくすため「フードロス削減」活動にとりくんだ。これが自分でつくったポスターだ。

⑩僕にできること「フードロス削減

高齢者住宅の支配人に、活動の取り組みを説明して協力してもらった

　ぼくは行動するのが得意だ。自分でつくったポスターを貼ってもらうため、仲良しのカフェや、近所にあるサービス付き高齢者住宅に行って、大人と交渉した。「使わないかもしれない食材を譲ってください」とお願いしたら、みんな、気持ちよく協力してくれて、とてもうれしかった。勇気をだしてよかったと思う。

⑩僕にできること「フードロス削減

高齢者住宅、カフェ、ピアノ教室などに届いた食材。全部で47.22kgあった！

協力してくれた高齢者住宅、カフェ、ピアノ教室などに届いた食材は全部で47.22kgになった！これはお茶碗１杯180gとして、380人分に相当する量だ。

角幡さんは１回の旅に持っていく食料が５０kgだったので、僕の集めた分くらいの食料をもっていくことになるんだなと思った。ぼくの取り組みはまだまだ小さいけど、続けていくことが未来につながっていくと思う。

終わりに

落ち葉に埋まるぼく

　今回、この話を母からされたとき、ぼくには無理だと思った。なぜなら北極にいったことがないのに、何が分かるというのだろう。
そうしたら、「現地に行った人や知っている人に話をきけばいい」と父が言った。僕は人と話すのが大好きだ。それならできる。父や母も協力してくれると言った。たまに、両親のアドバイスを素直に聞けずに喧嘩することもあったけど、年末、家族３人で大きな課題に取り組めてぼくはよかったと思う。これからは、角幡さんがいったように、「自分が心からやりたいと思ったことに真剣に取り組む」人になりたい。